

第236回 令和8年5月26日（火）

「かみあわないことについて」

自分のことを振り返ると「他人と違う」ことがたくさんあったと思います。考え方もそうですし、体の動かし方もなぜか独特でした。泳ぎ方、ボールの投げ方、走り方など人並か、それ以上にできるものもあるのですが、型をしっかり習わず独学なのが原因なのか、人と違うことが多かったように感じます。

考え方も同じ。課題があったとき、見え方や感じ方が独特なので集団で話していても自分の意見だけちょっと違うと感じることがよくあります。幼いころは一生懸命自分の意見を言っていました。他人を理解できるようになってからは自分の特性を理解したうえで、先頭を切って意見を言うことがあまりなくなりました。ほとんどは他の人の意見をしっかり聞いたうえで、自分の意見が場にそぐわなくないか、他人を攻撃していないかを見極めてから発言するようになりました。

若いころは他人と同じようにできないことで自己嫌悪する部分もありました。他人が言わないような意見をいうことが集団から浮いてしまうのではないかと、変わったフォームで飛んだり投げたりすることを少し恥ずかしいと思うこともありました。集団に溶け込みたいと思う気持ちが強かったのではないかと思います。

年齢を経てから少し考え方が変わったように思います。無理に集団になじまなくても良いと思うようになりました。自分が茶色の鳥だとしたら、白鳥の中にもカラスの中にも浮いてしまうのは仕方ありません。でも茶色であることを嘆くよりも茶色であることを楽しもうと思えるようになりました。

自分にとって「孤独」に対して寂しく感じることはあったとしても恐怖感はなくなりました。一番は家族の存在が大きいと思います。独特な自分の思考回路もときどき役に立つと思えるようになったこともあります。若いころは「つかみどころがない」とか「とっつきにくい」と言われることも多かったのですが、いまは寡黙であることはマイナスばかりではないとも感じています。

「他人と違うこと」を怖く感じてしまうとか、自分を嫌いになってしまうこともあるかもしれませんが、世界はものすごく広いので日本という国のスタンダードが世界のスタンダードではありません。

そもそもまったく同じ人間はいませんし、すべての人の考え方も動き方も教科書どおりだったらAIやロボットの世界と変わりありません。他人と違うことを楽しむ気持ちが生まれれば他者を受け入れる自分のキャパシティも広がります。自分は自分で良いのだと思います。